

## 虹の松原浜崎地区での松露確認

### (1) KPP 活動の成果

2018年12月9日に行われた浜崎地区における KPP 活動において松露の発生が確認された。作業中に小学生が道路沿いの細い松の付近で発見し採取した。

虹の松原では、「白砂青松の風景の再生」のために毎年4回、市民が自由に参加できる KPP(Keep Pine Project)―虹の松原クリーン大作戦―において、除草と松葉かきなどが行われてきた。当初は東の浜地区において行われてきたが、浜崎地区の森林浴の森公園付近では2016年(平成28年)2月から毎年1回、200~300名の参加のもとで行われてきた。今回の発見はKPP活動の大きな成果といえることができる。



2018年12月9日 KPP



2018年12月9日 KPPで発見された松露

### (2) 松露発生の確認の意義

松葉かきを行うことによって、①白砂青松の風景の再生、②広葉樹の侵入防止、③松露の再生ができる。松露は松の耐乾性や耐病性などを高めることが知られているので、松木の生育環境の健全さを表すバロメータと言われている(松葉かき、田中 明、「海岸林との共生」、196-199頁、2011年、山形大学出版会)。

### (2) 松露の胞子はどこから?

東の浜地区においては、2000年頃には当時の国民宿舎勤務の田原春美さんが長年、松葉掻きを行っていて、白砂青松状態が保たれていた。そのために松露が多く見られた。またその後の KPP 活動によって松葉掻きの範囲が着実に広がり松露の発生場所も広がっている。

浜崎地区では松露はどのようにして発生したのだろうか。松露は胞子を風や雨で飛ばす普通のきのここと違って、ハエやモグラなどの動物が胞子を運搬して発生することが多い。

また松露を発生することなく長年、土壤中に胞子が埋まっていて、適した条件が整ったら松露が発生するようになる「埋土胞子バンク」があることが知られている(ショウロと動物に関する文献解題、田中 明、平成29年度佐賀きのこ会年報、6-9頁、2018年)

### (3) 浜崎地区における松露育成の経過

「埋土孢子バンク」以外に、松露発生に関係すると思われる要因を考察してみる。

○昭和 60 年頃から佐賀県林業試験場の蒲原邦行さんが、浜崎地区において松露発生誘導のために松葉掻きやチガヤなどの除草などを行ったが、良い成果は得られなかった。しかし海浜館付近では松露の発生に成功した。

○平成 14 年から平成 25 年まで、虹の松原七不思議の会では虹の松原内の 3 カ所を佐賀森林管理署より借用し松露の育成のために、除草、松葉掻き、炭の埋設、松露菌の散布などを行った。その内の 2 か所では松露の発生に成功したが、浜崎地区では成功しなかった。

○2016 年 2 月に森林浴の森広場付近に抵抗性クロマツを植樹した。それらの松の周囲に松露菌で感染した松を仮植した。この場所は今回松露の発生が確認された場所に最も近い。

○今回の KPP を行い松露の発生が確認された場所ではモグラの穴が多数確認された。



松露が発見された付近のモグラの穴